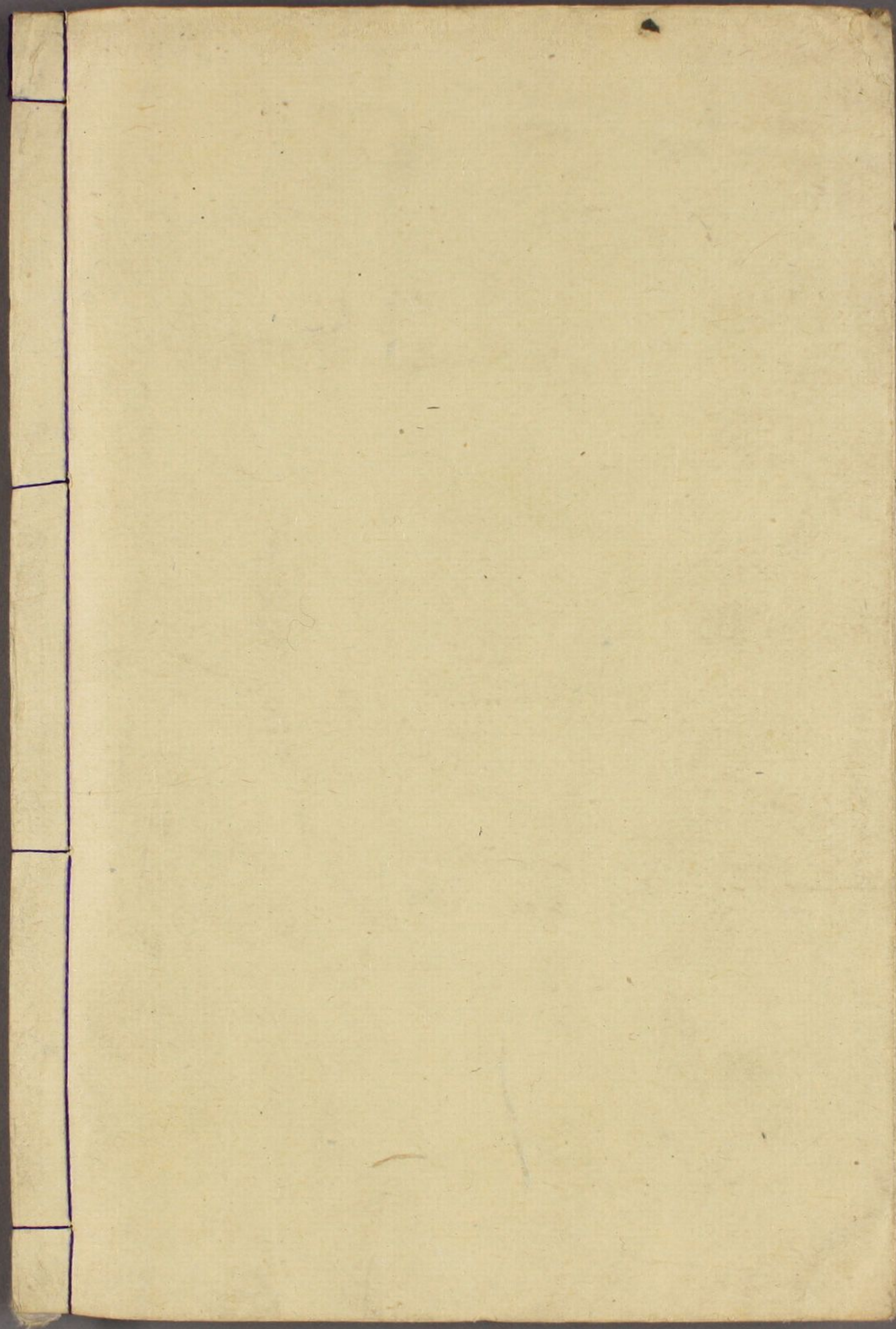


越佐歌集

上







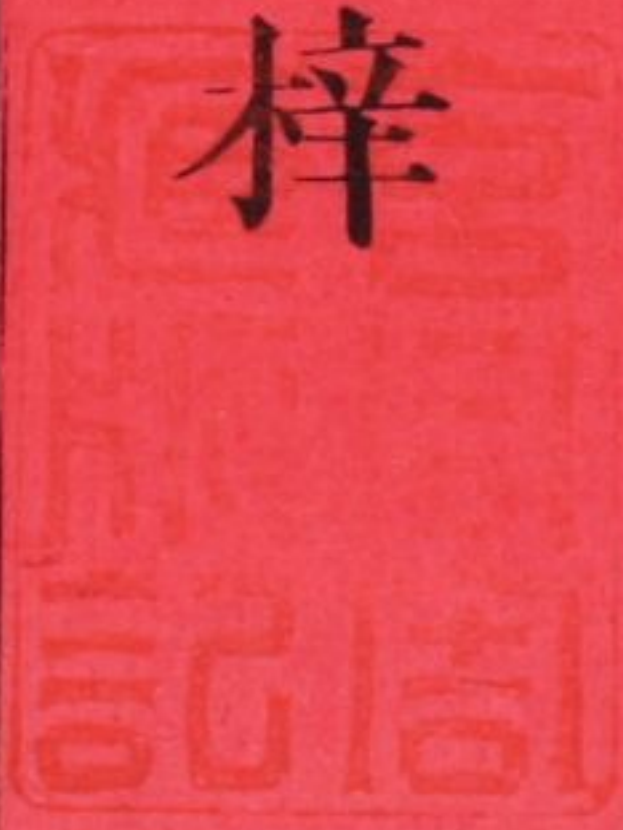
石丸忠胤編輯

哉佐歌集 全三冊

明治十九年

一月 新鐫

玄同舎藏梓



哉

越佐歌集

近刻

全部三册枚數半紙
凡百五十枚内外

該集ハ越後佐渡兩國歌集會及玉作二千五百首許ヲ題
林體ニ編輯シ卷末ニ作者ノ住所通稱舍號等詳細ニ記載シ貴顯名
家ノ題辭序文ヲ附シタル一大歌書ト爲シ上梓セントス芳名ヲ千
秋ニ流サント思フ歌人ハ編者ヘ向ケ寄草アラシム事ヲ是祈ル

寄草規則

- 一 詠草料紙ハ適宜タリト雖唐紙西洋紙等ノ如キ切斷シ易
キ品ヲ用サル事勿レ且詠草中ハ必ス住所姓名等詳細御
記載アルヘシ
- 一 多數ノ詠草中ニハ自然狂歌落題事實ヲ誤ル者意味通シ
難キ等無キヲ保セス依テ編入御申込ノ歌ヨリ三倍〔十首
編入ノ方ハ三十首五十首編入ノ方ハ百五十首〕以上ヲ記載シ御投稿ア
ルヘシ但四季戀雜ノ内且取捨ノ權ハ編者之ヲ有ス
- 一 添削御依頼ノ方ハ修正スヘキハ添削シテ編入ス且原稿
ハ總テ返付セス
- 一 詠草取集期限ハ本年七月限トス但二千五百首ニ達セシ
以上ハ期限内ノ寄草ト雖編入スルヲ得サル事アルヘシ
- 一 玉詠一首刻料金拾錢前文〔ハシ書ヲ云〕一行六錢ノ割ヲ以詠
草ヘ添付有ヘシ添付無之トキ郵税先拂ニテ返付ス
- 一 爲換金ハ新潟區本町通七番町郵便局ヘ御取組御送付ア
ルヘシ但實際不便ノ地ハ不得止貳錢形郵便切手壹割増
ニテ代用スルヲ得
- 一本集ノ件ニ付照會ヲ要スル時ハ郵便切手貳錢封入アルヘシ

明治十九年一月

新潟縣新潟區東堀通三番町三番地
編輯人 石丸 忠胤 謹白

石丸忠胤編輯

越佐歌集 全冊

明治十九年

一月 新鐫

玄同舎藏梓



越

神

鬼

丙午十二月一日

定本後多與筆聲

致書



Handwritten text in cursive script (草書), consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

Handwritten text in a cursive script, possibly a historical record or a list of entries, spanning multiple lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the entries from the previous page, spanning multiple lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, written on the right page of an open book. The text is contained within a rectangular border and consists of approximately 12 lines of dense, flowing characters.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, written on the left page of an open book. The text is contained within a rectangular border and consists of approximately 12 lines of dense, flowing characters.

春は花のさかすかに
 とあはれをよみしは
 りもよほけのうら
 りもよほけのうら
 ちの國へあはれを
 記

越佐歌集一之卷

雪中早梅

御會始御題

永山盛輝

うらやまの雪のふりし
 梅のほのかに
 近藤幸止

まつりつゆふりし
 梅のほのかに
 日野資徳

新らつゆふりし
 梅のほのかに
 山岸繁磨

梅のほのかに
 北條和太

かきつるまの國のむらさきもめりてはるる梅の吹雪ももろに

阿部謙道

こころのなつめはさかすめりてはるる梅の吹雪ももろに

大竹吉松

なつめはさかすめりてはるる梅の吹雪ももろに

渡邊貞三郎

梅の吹雪ももろに

森脇正恒

山内岩藏

山内岩藏

あけぼのの梅の吹雪ももろに

萩野重平

あけぼのの梅の吹雪ももろに

井田とら子

あけぼのの梅の吹雪ももろに

新田見太忠太

あけぼのの梅の吹雪ももろに

後藤多美雄

あけぼのの梅の吹雪ももろに

田卷有秋

あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう

内田和子

あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう

木島吉右衛門

あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう

山口久敬

あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう

轡田恒三

あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう

石丸忠胤

あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう

石丸夏子

あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう

新 喜太郎

あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう

遠藤義雄

あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう

河野 脩

あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう
あけましておめでとう

永山盛輝

新年鶴

久あひまき井はまのふらりあしあいらさきまの

石井長幸

あはれまのふらりあしあいらさきまのふらりあしあいら

石丸忠胤

ふらりあしあいらさきまのふらりあしあいらさきまの

近藤幸止

あはれまのふらりあしあいらさきまのふらりあしあいら

永山盛輝

あはれまのふらりあしあいらさきまのふらりあしあいら

日野徳多郎

新年祝言

一月一日

あはれまのふらりあしあいらさきまのふらりあしあいら

原 宏平

あはれまのふらりあしあいらさきまのふらりあしあいら

坂井綱長

あはれまのふらりあしあいらさきまのふらりあしあいら

仲川長次

あはれまのふらりあしあいらさきまのふらりあしあいら

川村利貞

あはれまのふらりあしあいらさきまのふらりあしあいら

宇佐美安政

歳旦

きりぎりすのこゝろにさかすかしの春のけしきをかきとめし

福壽草

佐野さち子

うきうきと春のけしきをよめしとてあはれさるるを

初春山

廣田直雅

たけのこも春のけしきをよめしとてあはれさるるを

初春川

渋谷波平

さかすかのけしきをよめしとてあはれさるるを

初春鶴

關川常昭

うきうきと春のけしきをよめしとてあはれさるるを

初春待花

玉橋兼之

あけぼのけしきをよめしとてあはれさるるを

早春山

石井長幸

あけぼのけしきをよめしとてあはれさるるを

山家早春

高野雅業

あけぼのけしきをよめしとてあはれさるるを

早春鶯

難波政五郎

あけぼのけしきをよめしとてあはれさるるを

石丸夏子

あけぼのけしきをよめしとてあはれさるるを

早春梅

石井長幸

夕ぬれをいふれど梅は色白くはなれどとやあはれ

解氷

日野資徳

は濱川に十漕舟とてしるは波の音もさしうけ舟は波

氷初解

二宮孝順

るんまゝさうりもや通れし氷の音もさしうけ舟は波

本多朴民

吹風舟もあはれしは舟は舟の音もさしうけ舟は波

大原龜治

梅川舟とてしるは舟の音もさしうけ舟は波

松迎新春

加藤きよ子

みづる舟もあはれしは舟は舟の音もさしうけ舟は波

子日

佐藤素栄

いさ引舟もあはれしは舟は舟の音もさしうけ舟は波

山居子日

飯田月印

しる舟もあはれしは舟は舟の音もさしうけ舟は波

子日松

廣田直雅

舟もあはれしは舟は舟の音もさしうけ舟は波

渡邊篤行

舟もあはれしは舟は舟の音もさしうけ舟は波

野上敬齋

生い盛りよ梅のさかぬるもはたよ一ふる心ゆきあはれ
鶯出谷 渋谷茂雄

うららかなる生くるくぬあけきけりみより此のまゝ
鶯告春 高野春栢

春たつといてちかきこゝろにひるもあまてしめこゝろ
春は歌乃かよ 高野春栢

春ふりさけり山をささめよあまらうのそらにたきし
初鶯 關川常昭

わくわく吉原をりてききはあけきよあふ心とや
玉橋兼之

あけきよあふ心とやわくわく吉原をりてききはあけ
霞中鶯 坂井綱長

あけきよあふ心とやわくわく吉原をりてききはあけ
雨中鶯 土屋政寛

あけきよあふ心とやわくわく吉原をりてききはあけ
曙鶯 三國秀雄

あけきよあふ心とやわくわく吉原をりてききはあけ
朝鶯 毛原常俊

あけきよあふ心とやわくわく吉原をりてききはあけ
原 宏平

あはれなるはなはなりの舟にちよとわたりてなほゆるきとほりて

梅近聞賞

渡邊篤行

うらみまはれ老のまゝにわがあはれまゝにわがあはれまゝにわがあはれ

玉橋兼之

うらまゝのあはれまゝにわがあはれまゝにわがあはれまゝにわがあはれ

石丸賤男

あはれなるはなはなりの舟にちよとわたりてなほゆるきとほりて

窓前聞賞

越上杏齋

あはれなるはなはなりの舟にちよとわたりてなほゆるきとほりて

明治七年四月より我五十杉園まで五十番

歌合し々あゝ賞聲稀とりのこゝに

石丸忠胤

櫻をちねさゆ〜ふまのうらみまゝにわがあはれまゝにわがあはれ

若菜

永山盛輝

あはれなるはなはなりの舟にちよとわたりてなほゆるきとほりて

難波政五郎

あはれなるはなはなりの舟にちよとわたりてなほゆるきとほりて

渋谷茂雄

あはれなるはなはなりの舟にちよとわたりてなほゆるきとほりて

摘若菜

玉橋兼之

さへ袖のしるし立ぬるわらわの夢さしつゝあはれ

雪中若菜

大矢真弓

下も入るわらわのしるしあはれ夢さしつゝあはれ

二宮孝順

らも入るわらわのしるしあはれ夢さしつゝあはれ

本多朴民

あはれわらわのしるしあはれ夢さしつゝあはれ

渋谷茂雄

まも入るわらわのしるしあはれ夢さしつゝあはれ

本間知常

梅

梅の香もきくしるしの香のたけはあはれつゝあはれ

待梅

石丸夏子

久たけのしるしあはれつゝあはれつゝあはれ

折梅

土屋政寛

まもゆゑの袖のしるしあはれつゝあはれつゝあはれ

梅盛

渋谷茂雄

あはれ風もきくしるしの香のたけはあはれつゝあはれ

瓶中梅

山宮基道

あはれ山もきくしるしの香のたけはあはれつゝあはれ

梅風

加藤清孝

春の歌はゆめ

高野春栖

梅薫風

長野長雄

月前梅

山岸繁磨

雨中梅

梅薫枕

洪谷茂雄

梅遠薫

原 宏平

梅つまむら

星野千芳

おほつれ垣根つまの梅は

梅風入袖

梅つまむら

洪谷波平

梅つまむら

水邊梅

梅つ川みま

飯野直枝

やまのたへるわに白の原をわたるらそとるなみの枝

梅咲訪閑居

野上敬齋

よのついでに世のわかくしうらなむらさきあけのあけのあけ

梅村聞笛

飯田月印

まの柳のついでにうらなむらさきあけのあけのあけ

柳

日野資徳

いれあけの川をい柳のあけのあけのあけ

野上敬齋

まの柳乃多れまうらなむらさきあけのあけのあけ

難波政五郎

まの柳あけの川をい柳のあけのあけのあけ

柳辨春

渋谷茂雄

まの柳あけの川をい柳のあけのあけのあけ

柳風静

本多朴民

まの柳あけの川をい柳のあけのあけのあけ

柳靡風

石丸忠胤

まの柳あけの川をい柳のあけのあけのあけ

春の歌よみよ中よ

山宮基道

まの柳あけの川をい柳のあけのあけのあけ

月前柳

土屋賢継

まほおのちるれ髪よりうぬのきくさかり氣そちのめく
雨中柳 原 宏平

おるひくちるれ髪よりうぬのきくさかり氣そちのめく
佐藤素栄

くりのまきし海をるるまほおのちるれ髪よりうぬのきく
水邊柳 加藤きよ子

まほおのちるれ髪よりうぬのきくさかり氣そちのめく
若草短 渋谷茂雄

のひたさしてちるれ髪よりうぬのきくさかり氣そちのめく
垣根若草 山岸繁磨

のひたさしてちるれ髪よりうぬのきくさかり氣そちのめく
野若草 石丸忠胤

のひたさしてちるれ髪よりうぬのきくさかり氣そちのめく
早蕨

のひたさしてちるれ髪よりうぬのきくさかり氣そちのめく
岡早蕨 山岸繁磨

のひたさしてちるれ髪よりうぬのきくさかり氣そちのめく
春月 加藤清孝

のひたさしてちるれ髪よりうぬのきくさかり氣そちのめく
星野千芳

いづれはあきらむるの夜那のしほのこゝろまて 撫さるる

春月幽 石丸忠胤

さほはめれもあはれ神つゝまねて夕とさききかたをさるる

月霞洩 星野千芳

ふもかたれよまきかたのこゝろをいもせとわねて夕さふへ

春曉月 土屋賢継

彩ちかく凡とさるる頃あけの枝よきとありぬる

石丸忠胤

さよのけはささるるせいにれもさよはあつた夕さるる

山春月 原 宏平

あはれいづれもあはれぬる山とさるるさるる

大矢真弓

かすかるといふもさるる夕影の影のなるとさるる

二宮孝順

さるるさるるあはれぬるさるるあはれぬる

山岸繁磨

あはれたくとさるるあはれぬるさるるあはれぬる

川口千隈

いづれはあはれぬるさるるあはれぬるさるる

あまのりともあはれぬるさるるあはれぬるさるる

市中春月

原 宏平

市人のあめせしむる春をばとほしとてかすむさしのねは
旅宿春月としよを題まてよめは中よ

石丸忠胤

さあまのつゆはれはとてとほしとてあめはとて
春曙

山口真直

いよしたまふよあめはとてとほしとてあめはとて
淡谷茂雄

嵐山にけしきあめはとてとほしとてあめはとて
春雨

阿部政一

あめはとてとほしとてあめはとてとほしとてあめはとて
夕春雨

山岸繁磨

あめはとてとほしとてあめはとてとほしとてあめはとて
歸雁

原 宏平

あめはとてとほしとてあめはとてとほしとてあめはとて
小林門平

あめはとてとほしとてあめはとてとほしとてあめはとて
雲間歸雁

長野長雄

あめはとてとほしとてあめはとてとほしとてあめはとて
海上歸雁

石丸忠胤

むらさきたぐひにたれをふりておのれ引よせり

静見花

通れぬて身をおく山の梅久よき雪の如くをさるれ

風静観花

遠藤義雄

吹風おちつききくつ梅おをさるるふとちかぬるけし

前田十雨

お風もくささあしめあつてよおむ梅のふをさるれ

後藤多美雄

さあつてお梅おのよひのちかぬるけし

風静花芳

川口千隈

吹よれおのよひのちかぬるけし

夕花

玉置清磨

夜のしらけのちかぬるけし

後藤真菅

夕まのれおのよひのちかぬるけし

山花

廣田真重

夕まのれおのよひのちかぬるけし

吉野山の花見よゆて

山宮基道

吹よれおのよひのちかぬるけし

花留人

石丸忠胤

こゝろもこのはらにふゆのちかぢに花の如くあはれをさぐりて

旅客越關

土屋賢繼

君の代もさうりふをさとしむるはもあはれをさぐりて梅のうらみ

水邊櫻

井田瑞璞

やせ川の花のさくらに梅のうらみをさぐりて梅のうらみ

山家花

渋谷茂雄

ゆふゆふもさくらをさぐりて梅のうらみをさぐりて梅のうらみ

竹間花

白井廣江

くれ舟とさくら櫻のさくらをさぐりて梅のうらみをさぐりて

花下忘歸

原 宏平

木のももよ末海をさぐりて梅のうらみをさぐりて梅のうらみ

石丸忠胤

さくらもさくらをさぐりて梅のうらみをさぐりて梅のうらみ

落花

關根謙三

さくらも雨をさぐりて梅のうらみをさぐりて梅のうらみ

落花似雪

野上敬齋

このはらに梅のうらみをさぐりて梅のうらみをさぐりて

河落花

石丸忠胤

嵐山ありて大井川をさぐりて梅のうらみをさぐりて

桃の花盛りなりて梅のうらみをさぐりて梅のうらみ

ほろりひのり

あつこい梅おさうしよとわかしほいぬあつこい

曲水宴

越上杏齋

さかきさかきさかきさかきさかきさかきさかき

燕

星野千芳

さかきさかきさかきさかきさかきさかき

山岸繁磨

さかきさかきさかきさかきさかきさかき

蛙

北川義敬

ちねさかきさかきさかきさかきさかき

水邊蛙

後藤春藏

あつこいあつこいあつこいあつこいあつこい

田澤和理

あつこいあつこいあつこいあつこいあつこい

松澤正苗

あつこいあつこいあつこいあつこいあつこい

小林寛之

あつこいあつこいあつこいあつこいあつこい

坂爪克輝

あつこいあつこいあつこいあつこいあつこい

名所蛙

武者喜澄

池を此の川乃山吹をたどり時えかたきもるく蛙を

蝶

渋谷茂雄

指より風よ吹せしちのまのふりこもよのたふり

躑躅

石丸忠胤

津代よりるをとかくは白くは常あはれつゝ一

山吹露

本多朴民

おしよりのぬきるおらひのたもよとあはれお

河邊藤花

山岸繁磨

山川をたもと白くは波をたつちかたふたふた

惜春

廣田直雅

春をたよりのぬきるおらひのたもよとあはれお

渋谷茂雄

待とよりのぬきるおらひのたもよとあはれお

石丸忠胤

くわたりぬきるおらひのたもよとあはれお

河暮春を

すけの欄をたつてりよのたもよとあはれお

關川常昭

るの山花をたつてりよのたもよとあはれお

春川

渋谷茂雄

あつらひのまはるる春の川を流るる水はみづかきよき水は清く流るる

春衣

廣田直雅

春の衣を着て春の風を吹かす春の衣を着て春の風を吹かす

春晚鐘

本多朴民

暮るる鐘の音は春の夜を告ぐる暮るる鐘の音は春の夜を告ぐる

紀元節

山岸繁磨

紀元節の日は春の光を照らす紀元節の日は春の光を照らす

越佐歌集二之卷

首夏

山岸繁磨

夏山は新緑をうつむ少女は神を祀る夏山は新緑をうつむ少女は神を祀る

石丸忠胤

夏鳥は首夏を告ぐる夏鳥は首夏を告ぐる

首夏鶯

渡邊篤行

首夏時鳥の音は春の光を告ぐる首夏時鳥の音は春の光を告ぐる

首夏時鳥

石丸忠胤

夏衣を着て春の風を吹かす夏衣を着て春の風を吹かす

更衣

遠藤経教

新らきまの夜かつしむちるけし神乃あつくまれ

土屋政寛

あつしむちるけし神乃あつくまれ

石丸忠胤

あつしむちるけし神乃あつくまれ

山岸繁磨

あつしむちるけし神乃あつくまれ

石丸忠胤

あつしむちるけし神乃あつくまれ

河野のふ子

尋残花

遅櫻

あつしむちるけし神乃あつくまれ

残花少

近藤幸止

あつしむちるけし神乃あつくまれ

新樹

日野資徳

あつしむちるけし神乃あつくまれ

中村春彦

あつしむちるけし神乃あつくまれ

山岸繁磨

あつしむちるけし神乃あつくまれ

白井廣江

新樹妨月

の枝さくら花のしほりてはなれぬはあはれものなほ

新竹

熊谷直基

しほりてはなれぬはあはれものなほ

佐野守義

とまはれぬはあはれものなほ

笋

石丸忠胤

しほりてはなれぬはあはれものなほ

卯花

石丸賤男

あはれものなほ

前山 祐

うはあはれものなほ

夜卯花

遠藤經教

あはれものなほ

月前卯花

石丸忠胤

あはれものなほ

里卯花

田中穂積

あはれものなほ

葵

日野資徳

あはれものなほ

時鳥

白井 章

くまはけしつたあもさすほしまたあふ枕よ思ひねる

待時鳥

渋谷茂雄

けしつたあもさすほしまたあふ枕よ思ひねる

獨待時鳥

石丸忠胤

けしつたあもさすほしまたあふ枕よ思ひねる

時鳥一聲

廣田直雅

けしつたあもさすほしまたあふ枕よ思ひねる

當座三十首歌よみかへし毎朝聞時鳥

のころを

石丸忠胤

けしつたあもさすほしまたあふ枕よ思ひねる

閏五月時鳥

渋谷茂雄

けしつたあもさすほしまたあふ枕よ思ひねる

月前時鳥

遠藤経教

けしつたあもさすほしまたあふ枕よ思ひねる

佐藤素栄

けしつたあもさすほしまたあふ枕よ思ひねる

齋藤文七郎

けしつたあもさすほしまたあふ枕よ思ひねる

毛原常俊

山はまのしずくもらふとよもよもよのこゝろに
夜時鳥

玉橋兼之

舟はまのしずくもらふとよもよもよのこゝろに
船中時鳥

遠藤延春

舟はまのしずくもらふとよもよもよのこゝろに
羈中時鳥

山岸敏宗磨

旅衣もらふとよもよもよのこゝろに
旅宿時鳥

よもよもよのこゝろに
よもよもよのこゝろに

早苗

阿部政一

あはれははなをむすぶとよの女よ苗をむすぶとよのこゝろに
洪谷茂雄

昔蒲

遠藤経教

むすぶとよのこゝろに
むすぶとよのこゝろに
羈中昔蒲

田中穂積

むすぶとよのこゝろに
むすぶとよのこゝろに
橘

北川義敬

むすぶとよのこゝろに
むすぶとよのこゝろに

阿部政一

佐藤素栄

原 宏平

玉橋兼之

土屋政寛

あべのまさかずのうたはなほよみよみ

すけのふみよしのうたはなほよみよみ

はらのひろゆきのうたはなほよみよみ

たまはらのたけあきのうたはなほよみよみ

つちのやまのたけあきのうたはなほよみよみ

五月雨久

五月雨雲

閑居五月雨

梅雨

三國秀雄

大原龜治

本多朴民

石丸忠胤

梅雨久

梅雨久

梅雨久

河梅雨

あまのつゆのうたはなほよみよみ

五月川

齋藤文七郎

汲人の袖やびつとむぬのたれむさねはま川の時
水鶏

石丸忠胤

妹もあやうめまねお宮おたかく水鶏にくとあるれ
夏は歌の中よ

高野春栖

夕いやうおおねお山屋水とくはれなくるるを
間居水鶏

岡村家久

おねうにやうくとおまよふ乃をたぐいおぼはれ水鶏
阿部政一

阿部政一

おまよふにやうくとおまよふ乃をたぐいおぼはれ水鶏

夏月

山口真直

かやちやひあめりひもききとせと産も涼くをぬ夕しつれは
山岸繁磨

山岸繁磨

美帯おはまのあまの影をいほいおたたくね夜のみ
渋谷茂雄

渋谷茂雄

子瀬川影おまをいしおたたくた似たれあまのねお
佐伯正幹

佐伯正幹

おねまもたかおまの影をいほいおたたくた似たれあまのね
難波政五郎

難波政五郎

おねまもたかおまの影をいほいおたたくた似たれあまのね

水邊螢

水邊の螢もかきよめしむらさきもあはれなるかな

永山盛輝

川口千隈

夕夜にせりねきぬらむかきよめしむらさきもあはれなるかな

石丸忠胤

池のほとりかきよめしむらさきもあはれなるかな

菊池リウ子

なほはえ残る螢もかきよめしむらさきもあはれなるかな

本多朴民

あつたむらさきもかきよめしむらさきもあはれなるかな

蚊遣火

川口千隈

蚊遣火の光もかきよめしむらさきもあはれなるかな

浩谷茂雄

夕影の光もかきよめしむらさきもあはれなるかな

星野千芳

もくしんかきよめしむらさきもあはれなるかな

高野雅業

よもぎもかきよめしむらさきもあはれなるかな

土屋政寛

あつたむらさきもかきよめしむらさきもあはれなるかな

夕顔

佐藤素栄

川骨

渋谷茂雄

氷室

日野資徳

夕立

廣田直雅

Handwritten Japanese text in cursive style, corresponding to the titles above.

遠夕立

本多朴民

蝉

原 宏平

Handwritten Japanese text in cursive style, corresponding to the titles above.

樹陰蝉

阿部政一

林頭蝉

飯田月印

Handwritten Japanese text in cursive style, corresponding to the titles above.

晩夏

澀谷茂雄

凡そこの世に生かすは三日月の如きなりとて清くもよみゆくとて

難波政五郎

おのころの世に生かすは三日月の如きなりとて清くもよみゆくとて

吉岡福藏

思ひはせはせぬまゝに世に生かすは三日月の如きなりとて清くもよみゆくとて

夏夕

波谷茂雄

夕の光に照らすは三日月の如きなりとて清くもよみゆくとて

夏瀧

野村忍介

清き水は流るるは三日月の如きなりとて清くもよみゆくとて

越佐歌集三之卷

立秋

永山盛輝

百もよみはせぬまゝに世に生かすは三日月の如きなりとて清くもよみゆくとて

山宮基道

海を渡るは三日月の如きなりとて清くもよみゆくとて

波谷茂雄

夕の光に照らすは三日月の如きなりとて清くもよみゆくとて

石丸夏子

夕の光に照らすは三日月の如きなりとて清くもよみゆくとて

加藤きよ子

こいせいの葉もろくもぬる秋まゝあはれなる物

立秋風

三國秀雄

まのあまて南かちるはれとて西よめりて海をよけり

石丸忠胤

くは秋はるもくもぬるれは秋まをわはれぬのまじき

曉風告秋

後藤春藏

曉のまを初とつる秋はるうかるまじきあはれなる

川村利貞

まよ衣袖をわくまはるもぬるあはれなる海はぬ

山家秋來

坂井綱長

うき世をよそにみ山はまもひの身もくも秋なるけり

幽栖秋來

佐野守義

まよとくもけあふのあはれは秋なる風

立秋述懷

井田瑞璞

芥たつれつゝぬひのまをあて身もくも秋のまは

初秋風

日野資徳

いづれとくも秋の葉もぬるまはるもぬる

石丸忠胤

あはれもぬるあはれなる秋はるなる世

初秋薄

遠藤経教

秋の来りそやいつたなるもれをいへるなほあまの秋

早秋田

玉橋兼之

まのふも秋の日の回をまては秋葉をまて秋きまを

田家早秋

渋谷茂雄

播よそ秋の来りそやいつたなるもれをいへるなほあまの秋

七夕

日野資徳

ふれそはふ代かきおきぬけなこやもふとれ川に

星野千芳

ふれそはふ代かきおきぬけなこやもふとれ川に

秋

原宏平

向きなりおれ秋の来りそやいつたなるもれをいへるなほあまの秋

秋風

渋谷波平

はひそは秋の来りそやいつたなるもれをいへるなほあまの秋

須藤圓位

まのふも秋の日の回をまては秋葉をまて秋きまを

野秋

石丸忠胤

まのふも秋の日の回をまては秋葉をまて秋きまを

風前秋

桂重輔

まのふも秋の日の回をまては秋葉をまて秋きまを

廣田直雅

夜みまへし 清き水はひまへる白き花はあはれ大母のあはれに

河邊女郎花

石丸忠胤

をみなくしつとふ影を名無川にたはひぬなれどひまへ

朝顔

山口真直

白き花はなまをこもめ少女のあはれに花はあはれかや

朝顔の花を人乃もたつとも次とて

石丸忠胤

朝顔の咲てしつとふ朝顔はあはれに花はあはれかや

露

川村利貞

露のつる花をこもめ少女のあはれに花はあはれかや

朝露

石丸忠胤

朝露のつる花をこもめ少女のあはれに花はあはれかや

月前露

關川常昭

あはれな露の咲てしつとふ朝露はあはれに花はあはれかや

野露

渋谷茂雄

あはれな露の咲てしつとふ野露はあはれに花はあはれかや

虫聲非一

中村春彦

あはれな虫の音はあはれに花はあはれに花はあはれかや

深夜虫

須藤圓位

あはれな虫の音はあはれに花はあはれに花はあはれかや

月夜虫

桂 重輔

月夜の虫はあはれをいふよのさやよ夕れねをいふのね

浅茅虫

渋谷波平

浅茅の虫はあはれをいふよのさやよ夕れねをいふのね

蟋蟀

日野資徳

秋の蟋蟀はあはれをいふよのさやよ夕れねをいふのね

川村利貞

海のおのよまはあはれをいふよのさやよ夕れねをいふのね

松虫

小松の虫はあはれをいふよのさやよ夕れねをいふのね

山岸繁磨

庭上の松虫はあはれをいふよのさやよ夕れねをいふのね

庭上松虫

星野千芳

庭上の松虫はあはれをいふよのさやよ夕れねをいふのね

鹿

日野資徳

庭上の鹿はあはれをいふよのさやよ夕れねをいふのね

鹿聲幽

小島清

庭上の鹿はあはれをいふよのさやよ夕れねをいふのね

大沼久賢

庭上の鹿はあはれをいふよのさやよ夕れねをいふのね

曉鹿

岡村家久

あけぼのの鹿の影をいづれもみよふにふしむるもあはれなるの影

中村春彦

あけぼのの鹿の影をいづれもみよふにふしむるもあはれなるの影

月前鹿

大瀧 晋

あけぼのの鹿の影をいづれもみよふにふしむるもあはれなるの影

野鹿

渋谷茂雄

あけぼのの鹿の影をいづれもみよふにふしむるもあはれなるの影

山家鹿

石丸忠胤

あけぼのの鹿の影をいづれもみよふにふしむるもあはれなるの影

秋夕

桂 重輔

あけぼのの鹿の影をいづれもみよふにふしむるもあはれなるの影

箴 平武

あけぼのの鹿の影をいづれもみよふにふしむるもあはれなるの影

玉置清磨

あけぼのの鹿の影をいづれもみよふにふしむるもあはれなるの影

山家秋夕

本多朴民

あけぼのの鹿の影をいづれもみよふにふしむるもあはれなるの影

秋風拂草

土屋賢継

あけぼのの鹿の影をいづれもみよふにふしむるもあはれなるの影

湖邊月

廣田真重

一もよおたつ丸のただえそ月まふわなほとびくはるは

社頭月

山宮基道

ゆたけ柳うねを想こほ月やされからんはははは

田家月

川口千隈

ほそそく 小田わのほのおとめて月そひりちりめき

閑居月

吉岡福藏

ほそそく 人あきしれぬあはの月よりあふよふのころ

旅宿月

高野雅業

旅衣うねの床のあふよふのころとやをよふのころ

窓前月

石丸忠胤

おきあそとやわつこほ月をきききたるあそとまひるの

松間月

野村忍介

山ね乃あお中しおなつこほわぬあなのおのそやと

山月浮水

伊東由松

よもよもすそとあそ山おるお水たよふおそのお

樵夫歸月

原 宏平

あまのるの山あおね乃中いさり夕の桂なりを

月下客來

渋谷茂雄

やうとあそとあははあそとあそとあそとあそとあそと

紅葉埋道

紅葉埋道

水島濤痕

岡紅葉

岡紅葉

桂 重輔

坂井綱長

坂井綱長

石丸忠胤

石丸忠胤

渋谷茂雄

暮秋

渋谷茂雄

白井廣江

白井廣江

小林門平

小林門平

高野春栢

高野春栢

暮秋露

暮秋露

日野資徳

秋夜讀書

秋夜讀書

七よ花の... 秋野

秋野

坂井綱長

秋の... 秋山松

秋山松

白井章

花... 秋眺望

秋眺望

佐藤素栄

... 秋祝

秋祝

小林勝次郎

た... 秋

石丸忠胤編輯

越佐歌集 全三冊

明治十九年

一月 新鑄

玄同舎藏梓

